≪情報公開文書≫

長崎大学病院における肺癌手術合併症の検討

研究の概要

【背景】

肺癌診療において、外科手術は根治の可能性がある治療の一つとして非常に重要ですが、術後出血や肺炎、遷延する肺胞漏、気管支断端瘻、乳び胸、膿胸などの重篤になりうる合併症のリスクがあることもまた事実とされています。一方で、頻度としては数%以内のものがほとんどであり、その症例の解析には一定の期間と症例数が必要です。長崎大学病院において、肺癌外科手術を受けられた患者さんのうち、肺癌術後に合併症を生じた症例群を解析し、そのリスク因子や対策について検討させていただきます。

【目的】

今回の研究では、長崎大学病院での肺癌手術の短期成績を明らかにし、さらには改善点があると すればどのような部分なのかを明確にすることを目的としています。

【意義】

肺癌術後に何らかの合併症を来した患者さんたちに、将来的により良い医療を提供できると思われます。当院は地方中核病院として、重篤な疾患を受け入れる責務があり、このような比較的稀ではあるものの重篤な経過をたどりうる疾患やその手術後の経過に注目、調査することは、地域医療に貢献することができ、さらには我が国の呼吸器外科の診療の推進、進化にもつながり、意義深い研究になるものと考えられます。

【方法】

長崎大学病院の診療録データから、下記に示す情報を本研究で使用します。このような情報を既報論文と比較検討し、地方中核病院として、地域で最も多い症例数がありかつ低侵襲手術を多く行っている当院の肺癌外科診療においてこのような指標がどうであるかを検討します。

対象となる患者さん

長崎大学病院において、2014年1月1日から2024年9月30日までに、長崎大学病院で肺癌もしくはその疑いで手術を受けられ、そのうち合併症を生じた患者さんが本研究の対象です。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- ※患者背景:年齢、性別、既往症(術前の時点での情報を収集します)
- ※術前要因

白覚所見

臨床検査所見:血算、生化学的検査所見、血液ガス所見、胸水生化所見

画像検査所見:

手術情報:術式、出血量、輸血量、手術時間

術後病理所見:

術後合併症情報:術後出血(再開胸の有無)、遷延性肺胞漏(ドレーン留置気管)、気管支断端瘻(開窓術の有無)、膿胸(胸腔ドレナージ、再手術の必要性の有無)、呼吸不全(術後人工呼吸器管理・気管切開の必要性の有無)、間質性肺炎とその急性増悪、脳梗塞、乳び胸(再手術の有無)、術後疼痛、肺水腫、神経麻痺(反回神経麻痺、横隔神経麻痺)、肺血栓塞栓症治療経過:

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日

本研究は2024年12月19日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。 ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日~2025年12月31日

研究実施体制	
研究責任者	所属:長崎大学病院 呼吸器外科
	氏名 谷口 大輔
	住所:長崎県 長崎市 坂本 1-7-1
	電話:095 (819) 7304
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院 呼吸器外科 谷口大輔

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話: 095 (819) 7304 FAX 095 (819) 7306

【ご意見、苦情に関する相談窓口】(臨床研究・診療内容に関するものは除く)

苦情相談窓口:医療相談室 095(819)7200

受付時間 :月~金 8:30~17:00 (祝・祭日を除く)